



演劇&空家活用で地域おこし
空家の情報収集中!

地域おこし協力隊 渡辺瑞帆さん(27歳)日高町日置



今年6月、渡辺瑞帆さんが地域おこし協力隊として、きりめき日高に着任しました。地域コミュニティ組織が受入団体となるのは本市初です。渡辺さんが委嘱された活動は「空家の活用」。まずはモデルケースとして空き店舗を自身の活動拠点に改修する計画を練っています。主な機能は、空家を持っている人と空家を活用したい人をつなぐ「情報集積の場」。地域の人と気軽に話ができる場にもできればこの拠点が完成するまでは、

自身が所属している劇団青年団の拠点、江原駅近くの一軒家で活動します。この一軒家は、日高町出身の冒険家・植村直己さんが明治大学山岳部に入部した当初のあだ名である「どんぐり」から、今後の躍進への希望を込めて「どんぐり荘」と名付けられています。豊岡演劇祭のパフォーマンスの場や出演者の拠点として空家を活用することも考えている渡辺さん。隊員であり劇団員でもある立場を生かして、地域と演劇のつなぎ役にもなればと意欲を見せます。

Toyooka Topics —とよおかの“旬”な人と話題—



▲望遠鏡をのぞき込み巣塔のコウノトリを観察する子ども

「ハチゴロウの戸島湿地」早朝特別開館
コウノトリのひなの巣立ち観察

ハチゴロウの戸島湿地の人工巣塔では、2008年から毎年コウノトリのひなが巣立っています。今年もひなの巣立ちを目前に、6月28日から、ひなの成長を観察する早朝特別開館が実施されました。巣塔の上では、ひなが「そ～れ、それ」と言わんばかりに羽をバタバタと飛ぶ練習。親鳥は巣立ちを後押しするかのよう交代で餌をせせと運びます。今年の戸島湿地では、3羽が大空へ飛び立つ準備をしています。この特別開館は全てのひなが巣立った7月6日まで、毎朝6時30分から実施されました。伊丹市から家族と来ていた川合桜太君(4歳)は、羽を広げてジャンプするひなを見て「ガンバレ、ガンバレ」と応援していました。

おでかけサマーワークショップ@但東
イタリアとフランスからアーティストがやってきた!

7月7日(日)、イタリアの児童劇団テアトロ・インプロヴィーズのダリオ・モレッティさん、フランスの児童劇団セマフォーのサンドラ・デニーさんによる、美術とクレープづくりのワークショップ(体験型学習)が但東町出合で開催されました。午前中の美術ワークショップでは、子どもの影を紙に映して輪郭をなぞり、子どもたちが自由に目や口を加え、不思議な生き物の絵ができました。参加した河越康之介くん(6歳)は「変な怪物ができた。面白かった」と笑顔でした。午後はサンドラさんとクレープ作り。薄く焼くのに苦戦しながら、クレープができました。「おいしいはフランス語でどう言うの?」などと話しながら楽しみました。



▲みんなで一枚の絵を描いていきます。